

「第3回千葉県環境研究センター基本構想検討会議」における基本計画策定に向けた意見

(R6.3.18開催)

NO	発言委員	発言（要約）	大分類	小分類
1	齋藤委員	県他の研究所との連携など、研究拠点として分野横断的に仕事がしやすいよう、なるべく拠点化する考えの方がよい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
2	近藤委員	行政は、solution oriented scienceという問題解決に軸足がないといけない。そうすると、単なる純粋な研究だけではなくて、いろいろな主体との連携というものがようになってくるので、こういうマインド醸成が重要。	必要な機能	調査・研究機能の強化
3	佐々木委員	広々とした共有の分析室・実験室とするなど、まずは設備投資をしっかりとってもらいたい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
4	向井委員	温度管理等の都合上、実験室をオープンにしたり、集約化するのは結構難しい。大きさの区切り方や、可能な範囲でオープンにする等いろいろ考えられるので、研究者の意見や使用する機器の種類等も踏まえて検討したほうがよい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
5	齋藤委員	新しい施設では、来訪者から研究室が丸見えで見学できるようになっていることが多いが、これが研究環境としてよいかは別である。研究員にとって研究しやすい環境を重視してほしい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
6	近藤委員	職員と県民との交流スペースとは非常に重要な設備。	必要な機能	調査・研究機能の強化
7	桑波田委員	情報のオンライン化が進む中、実際に集まる場や体験する場があると、情報深化や連携の観点でよい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
8	本郷委員	事務所を大部屋化し、仕切り等をなくすことにより、部署をまたいで意思疎通が非常にようになった。大部屋化、見える化しておくだけでも非常によい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
9	近藤委員	ただいろいろな分野の人が集まれるようにするだけではなく、コミュニケーションを形成する仕組みが必要。議論したりリラックスしたりするスペースといったハード面に加えて、所長のリーダーシップなど職員を融合させる仕組みが必要。総合地球環境学研究所（京都府）は、プロジェクトごとの壁や高いパーテーションがないことに加え、遊歩道や茶室などもあり、これらにおいて対話が始まる。	必要な機能	調査・研究機能の強化
10	佐々木委員	図書室は、オンライン化（資料をデジタル化）して、場所は使わないという方向にするべきではないか。資料検索等も効率化するため、今後はオンライン化を充実させるとよい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
11	近藤委員	図書室に関して、過去から積み重ねてきたデータ（資料）があるので、これらを電子化できるとよい。これらをきちんと保管するのはセンターのミッションだと思う。	必要な機能	調査・研究機能の強化
12	近藤委員	オープンなラウンジといったようなスペースは必要になる。	必要な機能	調査・研究機能の強化
13	佐々木委員	分析機器については、効率を上げる観点で、基本的なものは全て分析できるようにフルスペックの設備を入れるとよい。	必要な機能	調査・研究機能の強化
14	佐々木委員	研究室、執務室等は、個人個人が集中できるスペースと、オープンスペースなど他者とコミュニケーションがとれたりリラックスできたりするようなスペースの両方が確保されることが大事。	必要な機能	調査・研究機能の強化
15	佐々木委員	大部屋では低めのパーテーションで、座っているときは視界が遮られ、立てば周りが見える環境であれば問題ない。	必要な機能	調査・研究機能の強化
16	近藤委員	【再掲】 職員と県民との交流スペースとは非常に重要な設備。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
17	桑波田委員	【再掲】 情報のオンライン化が進む中、実際に集まる場や体験する場があると、情報深化や連携の観点でよい。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
18	桑波田委員	県民が「集まる」「連携する」「情報を得る」「体験する」ことができる場があれば、行ってみようと思う。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
19	桑波田委員	子どもが研究者と交流する機会など、子どもの興味につながる場を作っていけるとよい。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
20	桑波田委員	センターが県民にとって身近で頼りになり、県民がボトムアップできるような場であるとよい。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
21	向井委員	千葉県として特色のある展示物や体験できるもの等があると、県民にとって親しみやすい、人の訪れる研究所になるのではなか。博物館的なものを設置するなど。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化

「第3回千葉県環境研究センター基本構想検討会議」における基本計画策定に向けた意見

(R6.3.18開催)

NO	発言委員	発言（要約）	大分類	小分類
22	向井委員	地域的な環境の変遷や今後必要なことを考えられるような教育的な施設ができるとよい。地域的に重要なものを保存しているような施設になるとよい。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
23	近藤委員	研究の世界では一般性・普遍性が重視されるが、問題解決には地域の知見・経験が重要になる。地域の研究成果を地域で保管しオープンにできる設備、あるいは電子化して発信できる設備が非常に重要。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
24	近藤委員	センターの価値を高めるためには、電子を含めた情報や施設のオープン化、広報のための施設が重要。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
25	桑波田委員	ビオトープ等は、既存のもの（県立中央博物館や各市町村のものなど）を活用していけばよい。	必要な機能	発信・交流の拠点機能の強化
26	近藤委員	建物が低層であれば、木造にすることも非常によい。その場合でもZEBは今の時代に絶対必要。	必要な機能	地球温暖化対策に係る機能の強化
27	近藤委員	建物は、千葉県における環境に関するシンボリックなものになるとよい。	必要な機能	地球温暖化対策に係る機能の強化
28	近藤委員	ヒートアイランド、エネルギー対策の観点で、建物だけでなくその周辺の整備が重要。風の通り道等の生態系サービスを使うことなどによる、気候変動に対応しているというメッセージ的なものがあるとよい。	必要な機能	地球温暖化対策に係る機能の強化
29	本郷委員	組織や業務など将来を見越して建物を設計することが大切。	必要な性能	可変性
30	齋藤委員	建設地は、将来柔軟に対応できるよう、面積的に余裕のある土地がよい。	必要な性能	可変性
31	齋藤委員	防災拠点としてのポテンシャルがある土地を選ぶ視点。（地盤、海拔など。）	必要な性能	安全性
32	向井委員	気候変動や災害といった観点を含めた事業継続性をいかに維持できる施設になるかが重要。	必要な性能	安全性
33	近藤委員	【再掲】建物が低層であれば、木造にすることも非常によい。その場合でもZEBは今の時代に絶対必要。	必要な性能	省エネルギーの推進
34	近藤委員	【再掲】ヒートアイランド、エネルギー対策の観点で、建物だけでなくその周辺の整備が重要。風の通り道等の生態系サービスを使うことなどによる、気候変動に対応しているというメッセージ的なものがあるとよい。	必要な性能	省エネルギーの推進
35	近藤委員	【再掲】建物が低層であれば、木造にすることも非常によい。その場合でもZEBは今の時代に絶対必要。	必要な性能	ライフサイクルカーボンの削減
36	佐々木委員	【再掲】図書室は、オンライン化（資料をデジタル化）して、場所は使わないという方向にするべきではないか。資料検索等も効率化するため、今後はオンライン化を充実させるとよい。	必要な性能	デジタル活用
37	近藤委員	【再掲】図書室に関して、過去から積み重ねてきたデータ（資料）があるので、これらを電子化できるとよい。これらをきちんと保管するのはセンターのミッションだと思う。	必要な性能	デジタル活用
38	近藤委員	【再掲】研究の世界では一般性・普遍性が重視されるが、問題解決には地域の知見・経験が重要になる。地域の研究成果を地域で保管しオープンにできる設備、あるいは電子化して発信できる設備が非常に重要。	必要な性能	デジタル活用
39	近藤委員	【再掲】センターの価値を高めるためには、電子を含めた情報や施設のオープン化、広報のための施設が重要。	必要な性能	デジタル活用
40	佐々木委員	計算機、サーバー等を整備する場合は、IT企業等との契約による外部サーバー利用とするなどの方向性が今後はよい。	必要な性能	デジタル活用
41	向井委員	設備等の集中・効率化もよいことだが、例えば一部のガスの温度管理や配管の長さなど、分析精度に影響のあるものもあるため、精度維持に配慮してほしい。	必要な性能	調査・研究機能の維持
42	佐々木委員	現地での調査等を効率的に行うための搬出入口や機材等の手当て（整備）も非常に大事な視点。	必要な性能	調査・研究機能の維持
43	齋藤委員	センターの意義や研究成果の積極的な発信等の観点で、アクセスの良さが重要。	施設整備	建設場所
44	本郷委員	建物のデザインなど意匠は、研究者のモチベーションやマインドに影響がある。この部分に力を入れることが企業でもある。遊び心のあるデザインになるとよい。	施設整備	構造計画、必要諸室